

令和2年度3学期始業式校長式辞（令和3年1月8日リモートで実施）

あけまして、おめでとうございます。2021年がスタートしました。また、令和2年度の3学期が始まりました。リモートではありますが、今、朝日高校で皆さんとともに集まることができることをたいへん嬉しく思います。

皆さんは、この2021年を、この3学期をどのように生き、過ごしますか。私からは、2点お話しします。

1点目は、当面避けて通ることができない問題のことです。コロナ禍で生き抜くということです。昨日、国は、首都圏を対象として緊急事態宣言を発令しました。京阪神や愛知への宣言拡大を求める動きもあります。

緊急事態宣言に関連して、本校には、二つのことが大きく影響すると考えます。

まず、「学校の一斉休校なし、大学入試実施」です。特に3年生には、これまでとこれからの努力発揮の場が確保され、目指すべき大学を目指すことができるということです。私は、学校教育活動の継続も含めて望むところであると思います。最善を尽くして前進しましょう。

二つ目の影響としては、今後、本校では私立大学の入試を皮切りに首都圏等との出入りが確実になされるということです。岡山県としての対処方針は今日中に出される予定ですが、まずは一人ひとりの新型コロナウイルス感染症対策のハードルを上げることが必要と思います。

このことは、予防の実効性を確保することに加えて、対策の状況によって、「しっかりできている所」と「あいまいであった所」とでは、発生時の対応や学校全体への影響が変わってくることに繋がる可能性があることから大切です。

当面は、12月22日に教室掲示した6項目を徹底することです。教

室で、教室以外の校内のすべての場所で、部活動で、試合のときにも、大学入試中や移動を含めた前後の全場面で徹底することが必要です。また、同様のことを、家庭でも地域でも、可能なことについては徹底する必要があります。

自分の行動が、他人や社会にどう影響するのかについての想像力をもって行動することが必要です。本校教職員も真剣に指導します。

このことは、「話をしてはならない」、「他者と関わらない」ということではありません。マスクは、会話する両方がつけておかないと効果が少ないので、特段の理由がない限り全員つけること、食事の直後の会話時にも、更衣室での更衣中にもつけること等の「対策」をするということです。

もちろん結果として、何が起きても、差別につながる行為はしてはならないことは、言うまでもありません。

2点目は、新しい年に当たり、コロナ禍の有無にかかわらず、人間中心の社会に貢献し、大学や大学の向こう側の社会で生き抜いていくための力を獲得する充実した年にしてほしいと思います。

未来へ向けて、未来から見た今の自分という観点で、大きな夢や目的など自分の物語と日々の取組を、しっかりと繋げていくことが大切です。

そして、すべてのことがらの前提となることは、生きて、日々生活しているということです。私は、このこと自体に根本的な価値があると思っています。

2021年、そして3学期、皆さん一人ひとりが、一人ひとりの在り方で、成長することを期待して、始業式の式辞とします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)